

新たな大学図書館を模索して : 浜医スマート・ライブラリ構想

著者	伊原 尚子
発行年	2018-06-15
URL	http://hdl.handle.net/10271/3360

【重点領域① 知の共有】

新たな大学図書館を模索して： 浜医スマート・ライブラリ構想



第65回総会研究集会テーマ報告
平成30年6月15日

伊原尚子(浜松医科大学 学術情報課長)



浜松医科大学の概要

【大学について】

建学 昭和49年（創立44年）

医学部 医学科・看護学科

大学院 医学系研究科（医学専攻・光医工学共同専攻・看護学専攻）
連合小児発達学研究科[浜松校]

学生数 学部生 993名 大学院生266名

教職員 教職員数 1,790名（医員、研修医等を含む）

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、
第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、
第3に患者第一主義の診療を實踐して地域医療の中核的役割を果たし、
以て人類の健康と福祉に貢献する。



附属図書館の概要

【附属図書館について】

(平成29年度)

蔵書数 54,212冊 年間受入冊数 1,999冊

所蔵雑誌種類数 1,981種類 年間受入雑誌種類数 286種

入館者数 100,944人(延べ人数)

貸出総数 7,749点

面積 1,757m² 座席数 233席

経常経費 112,116(千円)

うち 図書購入費 5,260(千円)

電子ジャーナル等購入費 69,722(千円)

職員

常勤職員5名 非常勤職員 7名

「国際化統括部門設置準備室」の事務も担当(平成29年11月より)

24時間開館を実施



ビジョン2020 知の共有

重点
領域

①

知の共有

〈蔵書〉を超えた知識や情報の共有

大学図書館は、知の共有という観点から、大学における教育・研究に必要な知識、情報、データを網羅的に提供する必要がある。紙の図書や雑誌等によって構築された従来の蔵書に加え、電子ジャーナルや電子ブック等の電子的リソース、機関リポジトリに掲載される研究論文、学習教材やデータといった教育研究成果、さらにはインターネット上において誰もが自由にアクセスできる有用なコンテンツをも含む全体を対象として知の共有のための方策を検討し、実現する。

目標1 教育研究成果の発信，オープン化と保存

目標2 出版された資料の整備と利用

目標3 知識や情報の発見可能性の向上



スマート・ライブラリ構想とは

スマート・ライブラリ将来構想

現代にマッチし、世界に必要とされる医療人育成のために

浜医スマート・ライブラリ Smart Library

紙媒体から電子媒体へ

～従来型図書館からSociety 5.0型図書館へ～

自律的な修学のための支援

- ・ 効率的に必要な情報を活用できる電子資料 (Digital Contents)の選択収集
- ・ e-learning contents の作成・供給
- ・ 動画教材やVirtual reality教材を活用した最新医療の習得の支援



ICTを活用した双方向コミュニケーション

- ・ 海外学生との対話による相互理解
- ・ 国際PBL等の双方向対話学修
- ・ 国際感覚とコミュニケーション能力の涵養



人間形成を促す学修空間

- ・ 個人学修とグループ学修の深化のために静から動へ幅のある空間整備
- ・ 自在に利用できるICT機器の整備



多様性への寛容

先端のICTが人との対話を生み、性別、年齢、学年、学部、文化を超えて多様な価値観に接する場となる。

相互の独自性を補完

- ◆ 静岡大学附属図書館浜松分館
- ・ 知の集積としての蔵書
- ・ リベラルアーツ教育
- ・ 工学・情報学的見地
- ・ カレッジ機能



教育資産の共有と連携

- ・ 学部・学年を超えた教材、人材の共有
- ・ e-learning contents の自由な利用
- ・ 遠隔講義への参加

連携による効果

- ・ 自律的学修能力と応用能力の涵養
- ・ 豊かな人間性と高い倫理観の涵養
- ・ 多角的な学問見地と社会的基盤の確立
- ・ 独自性の認識と多様性の寛容
- ・ 異分野の理解による共同研究機運の育成
- ・ 新たな学術領域を創造する基盤の育成

良き医療人の育成





構想の背景

図書館の改修計画

- キャンパスマスタープランの構想の軸に環境改善、リノベーション
- ・H25にラーニング・コモンズは整備済み
- ・第3期中期目標に40席の増席を記載
- ・書架占有率が90%を超え、空調の不備によるカビの大量発生

学長主導の図書館改革

- 図書館をスマート・ライブラリに
- ・Society5.0型の図書館を目指す
- ・スマホ世代の学生の学修行動の変化
- ・古い図書は弊害(古い医療知識は不要)

紙媒体からの
脱却

県内の国立大学との連携

- 独自性の確立と教育資源の共有



どの資料を残すのか？

物理的な制限

→書架長

改修前 3.26km(収蔵能力 9.1万冊)

改修後 1.54km

→改修後には、書架占有率60%を目標に。

金銭的な問題

→図書燻蒸の実施

→改築時にかかる図書の移動および保管費用

資産の減額にかかる学内調整

→約3億円の資産減少



目標冊数
52,000冊



除却に向けての学内合意

除却のための基準づくり(蔵書検討WG)

- 図書館長が、各領域から教授クラスを中心に選出
- 分野特性と蔵書構成の確認

教授会での繰り返しの説明

- スマート・ライブラリ構想の
目指すもの

構成員による蔵書リスト、棚の確認



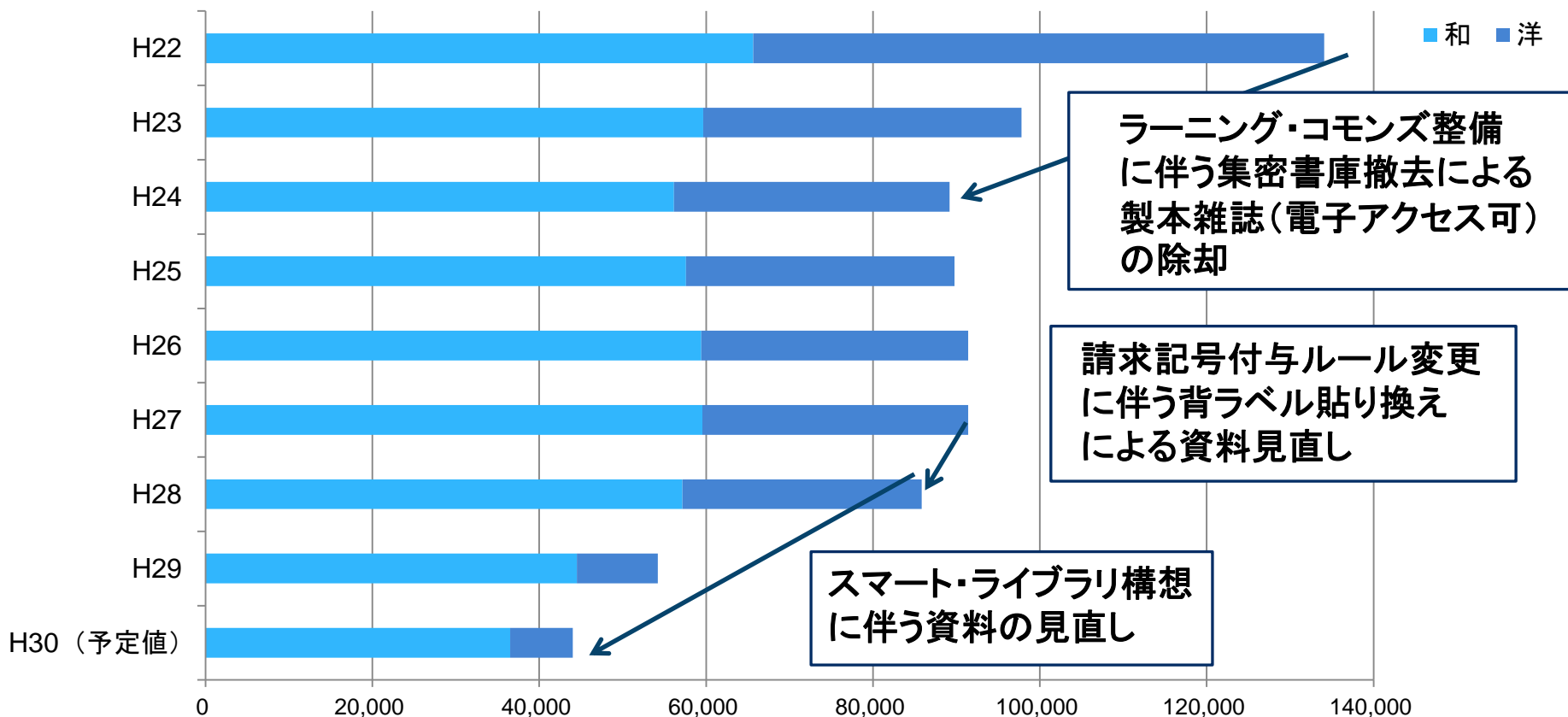
**反対の意見は非常に少なく
むしろ、想定以上に除却対象を
提言される結果に**

今回の除却に向けての基準

	分野	除籍対象
図書	医学分類	<ul style="list-style-type: none"> ・～2004/3受入かつ貸出履歴なし ・研究室返却資料は発行から6年まで
	1類	<ul style="list-style-type: none"> ・～2004/3受入かつ貸出履歴なし ・日本語・英語以外で書かれた資料 ・ペーパーバック
	2類-7類	<ul style="list-style-type: none"> ・～2004/3受入かつ貸出履歴なし ・美術大判
	8類	<ul style="list-style-type: none"> ・～2004/3受入かつ貸出履歴なし ・TOEIC・検定(5年以上前発行) ・教科書(5年以上前発行) ・語学(独・仏・中)研究資料
	9類	<ul style="list-style-type: none"> ・文学の研究資料
	文庫新書	<ul style="list-style-type: none"> ・～2004/3受入かつ貸出履歴なし
	ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年間貸出履歴なし
	参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・～2004/3受入のうち、タイトル選定 ・旧版・重複
	雑誌	製本雑誌
未製本雑誌		<ul style="list-style-type: none"> ・地方機関発行等雑誌 等



蔵書数の変遷



スマート・ライブラリ構想に伴い、
製本雑誌の70%、図書30%を除却(予定)



代替手段の検討・実施

電子資料の計画購入・利用支援

- 継続的な予算要求
- 普及に向けてのリテラシー活動

問題点もあり

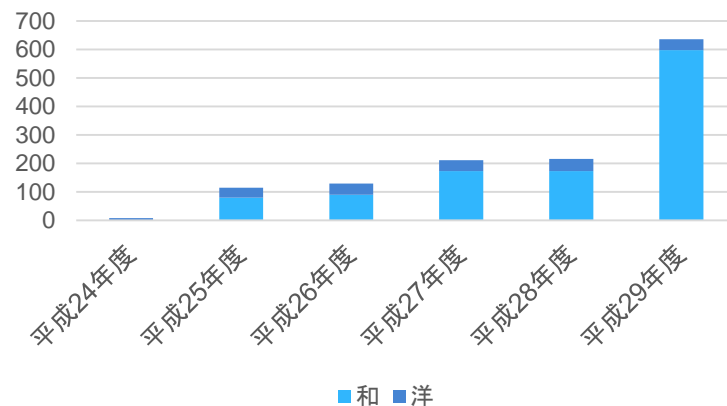
日本語の医学系電子書籍は、旧版のみ提供される場合が多い

地域の情報資産を活用

- 浜松市立図書館との連携

アメニティエリアへの書店誘致

電子書籍所蔵数





構想に向けての新業務

浜医学修支援システム

- 授業動画や教材を配信するポータルサイト
- 普及に向けてのリテラシー活動



国際化統括部門設置準備室

- 国際的なコミュニケーション能力向上
- グローバル・コモンズの活動への積極的関与
- 大学の国際化に向けての方策検討(国際情報発信)



図書館の仕事？
大学の仕事？
スマート・ライブラリの仕事 ◎



さいごに

- ・単科医大だからこそその挑戦
- ・黒歴史に名前を刻む覚悟で→大学の目指す光ある未来
- ・あくまでも「構想」→何も実現できていないのが現状
- ・とはいえ、本を除却してしまったので、もう後戻りはできない。
- ・何をすべきか。大学の方向性にそって考える。
- ・**図書館飛躍のための千載一遇のチャンス**

附属図書館長のあいさつより抜粋

欧米の数百年の歴史を誇る図書館では、そこにいるだけで「知の拠点」としての威厳と存在感を感じることができます。存在そのものが「知識」と「知恵」を与えてくれるようです。

たかだか四十有余年とは言え、先達が残してくれた貴重な図書を手放すのは大変心苦しい限りです。引き換えに確保したスペースに展開した「議論」の場で、新しい世代が新しい感性で「知の拠点」の足跡と息吹を感じ、「智を愛し希求」してくれることを願います。